

産業、街の再生さらに

党復興加速化本部

岩手、宮城の沿岸被災地を調査



パンザイ・ファクトリーの高橋代表取締役(左端)から水産加工品の製造工程について話を聞く井上副代表(右端)ら=16日 岩手・大船渡市



高度な衛生管理に対応する気仙沼市魚市場の新棟を視察する井上副代表(前列左から2人目)ら=17日 宮城・気仙沼市

公明党東日本大震災復興加速化本部(本部長・井上義久副代表)は16、17の両日、岩手、宮城両県の沿岸被災地を訪ね、復興の現状と課題を調査した。井上本

会対策委員長)、地元議員らが同行した。

一行は、岩手県大船渡市で食料品や木工品の製造販売を手掛ける「株式会社バンザイ・ファクトリー」を訪問。高橋和良代表取締役

から、ワカメやホタテといった海産物を商品化した「三陸白茶煮」や山桜を使った酒器など、地場産品を活用した産業や雇用創出への取り組みを聞いた。

陸前高田市では、高台に

住宅地を造成した今泉地区

を視察。戸羽太市長から地域公共交通の財源確保について要望を受けた。

宮城県に入った一行は、

4月から運用が始まる気仙沼市魚市場の新棟へ。高度な衛生管理に対応する閉鎖型の荷さばき場や市民が利

用できる見学スペース、調理室を見て回った。菅原茂

市長は「観光客や子どもたちに足を運んでもらい、市全体の活性化を図りたい」と語った。また、震災前のにぎわいを取り戻すため同市

中心部で整備が進む商業施設や、震災遺構の気仙沼向洋高校旧校舎も見学した。その後、南三陸町の複合型福祉施設「結の里」を訪れ、災害公営住宅の住民などを対象にデイサービスや子育て支援を展開する様子を視察。東松島市では、集団移転地「あおい地区」における住民主導の街づくりの概要やコミュニティ維持に関する課題を聞いた。

女川町では女川駅前の商業エリアや新町庁舎を視察し、慰靈碑に献花した。

視察後、井上副代表は「住宅や産業の再生は進む一方

でコミュニティーの構築に課題が出てきている。状況に応じたきめ細かな支援を考えたい」と語った。

II関連記事7面